

JANOG43 ハッカソン Wrap-up & Winner

土屋 太二

(JANOG43ハッカソン運営委員長 / Fastly K.K.)

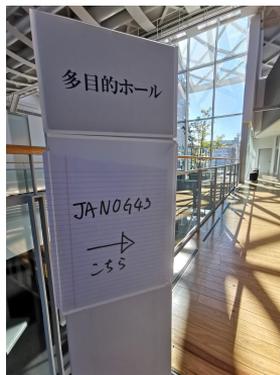
北内 薫

(JANOG43ハッカソン運営委員長 / 株式会社ドワンゴ)

JANOGハッカソン二回目！

開催概要

- 日時: 2019年1月22日(火) 10:00～18:00 JST (JANOG前日)
- 開催場所: 山梨県立図書館 多目的ホール
- 参加者: 24名 + ハッカソン運営委員11名



本イベントにご賛同、ご支援いただきありがとうございました！

- 参加者のみなさま
- 会場&お菓子ご提供いただいたデジタルアライアンスさま
- 機材提供いただいたJPNICさま
- ロゴ提供いただいたミテネインターネットさま
- JANOG43実行委員のみなさま
- JANOG43ハッカソン運営委員のみなさま

企画者の想い

- ネットワーク運用業務の改善に取り組みたいけど、なかなか踏み出せない方々の背中を押ししたい。
- 集中して開発に挑戦し、失敗してもOKな環境を提供してあげたい。そして本業でも業務改善に取り組むきっかけにしてほしい。
- 様々な組織のネットワーク運用者とソフトウェア開発者が一緒に肩を並べてテーマに取り組むことで、新しいネットワーク運用の形が見えてくるのでは。

JANOG43ハッカソンロゴ

(ミテネインターネットさんに作成していただきました)



当日の流れ

10:00-10:30 本イベントの説明

10:30-11:00 事前に提出いただいたテーマについて紹介(1テーマ1-2分程度)

11:00- グループ分け & 議論 & 開発 & 資料作成
(お昼ごはんは各自で)

17:00 発表資料締切

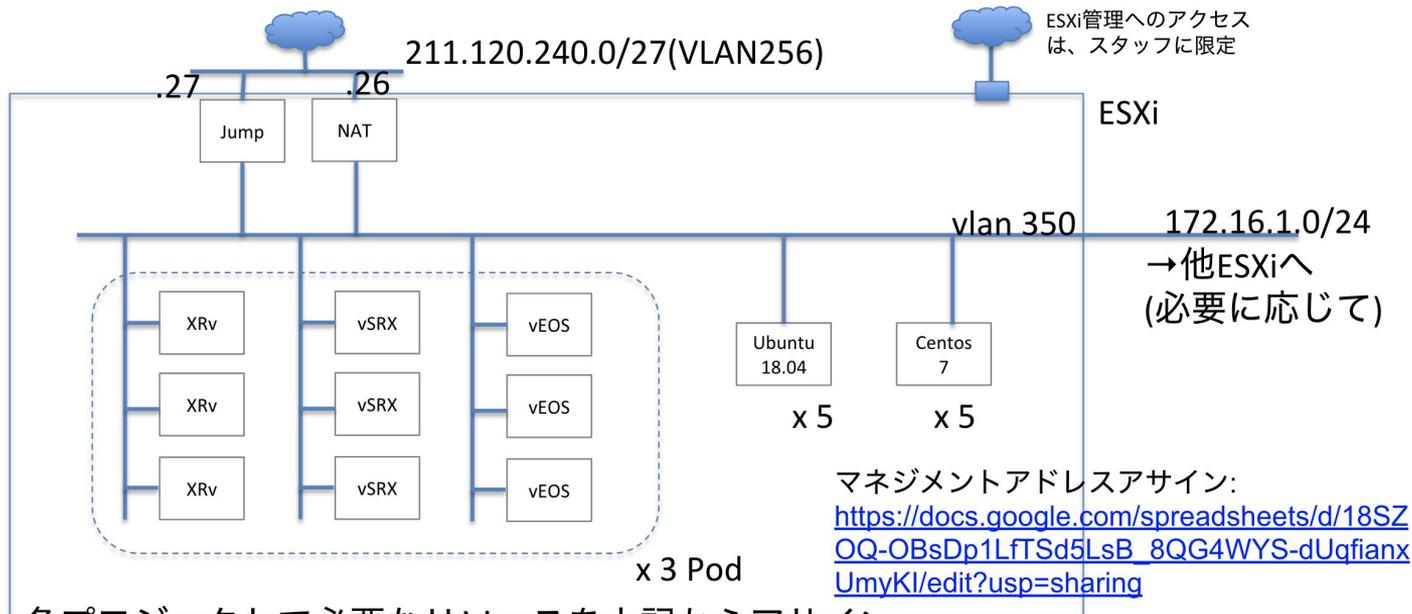
17:00-17:45 各テーマの成果物のデモ・発表(1テーマ5分程度)

17:45-18:00 参加者・運営委員による投票、優勝グループ決定

19:00 懇親会

ハッカソンラボ環境(JPNIC様にご提供いただきました)

JANOG43 Hackathon 構成案 – 2018.12.21



- 各プロジェクトで必要なリソースを上記からアサイン
- 参加者は、Jumpサーバ経由で各リソースのマネジメントにアクセス
- マネジメントセグメントは、NAT経由でグローバルへ到達可能

ハッカソンテーマ(事前16テーマ ->当日8テーマ)

id1: トラフィックコントロール最適化

id2: 「Linux標準教科書」のNotebook化

id3: NW構成管理とトラフィック経路の世代管理/ルータ状態の記録・保存および管理、経路の見える化

id4: ルータの正常性確認の自動化

id5: ansible + githubフローでテスト自動化

id6: データ収集・オペレーション自動化によるNW運用の改善

id7: Telemetryを用いた障害検知と復旧の自動化

id8: NW flowとDNS 名前解決を合わせたデータ分析

成果物発表資料はこちらで公開しています。

<https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1Z1u09l58r5AdYo-3EdbUUmVsWaYIURSI>

当日の風景



成果物発表

参加者&運営委員による投票は、Slackのreaction機能を使って集計しました。



yokochi 1 day ago

id8: NW flowとDNS 名前解決を合わせたデータ分析



yokochi 1 day ago

id1: トラフィックコントロール最適化



yokochi 1 day ago

id3: NW構成管理とトラフィック経路の世代管理/ ルータ状態の記録・保存および管理、経路の見える化



yokochi 1 day ago

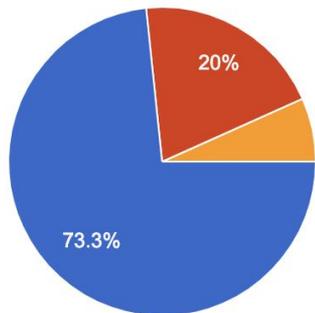
id7: Telemetryを用いた障害検知と復旧の自動化



アンケート結果(2019年1月24日時点)

あなたの立場を教えてください

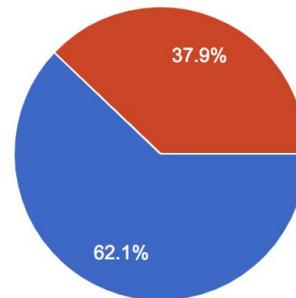
30 responses



- ハッカソン参加者
- ハッカソン運営委員
- JANOG43実行委員
- 見学者
- その他

JANOGハッカソンの参加回数を教えてください。

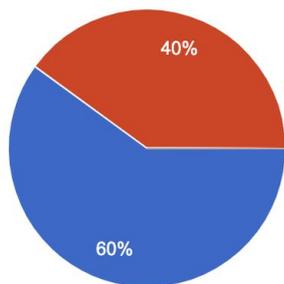
29 responses



- 初参加
- 二回目

JANOG42ハッカソンの評価を教えてください。

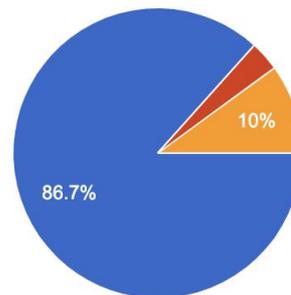
30 responses



- 大変よかった
- よかった
- よくなかった
- 大変よくなかった

次回JANOGハッカソンが開催されれば参加したいですか。

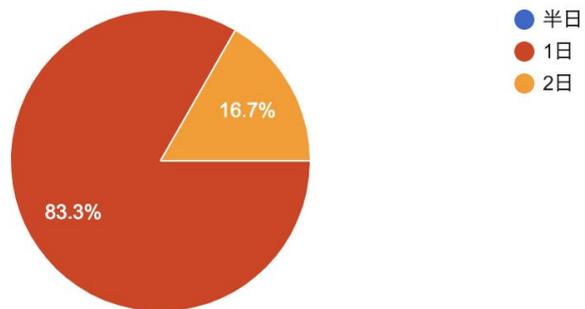
30 responses



- 参加したい
- 参加したくない
- どちらとも言えない

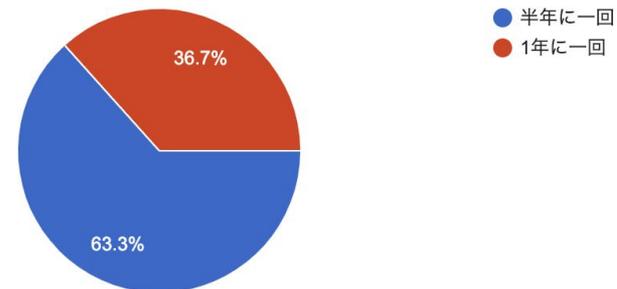
適切だと思うハッカソンの開催時間を教えてください。

30 responses



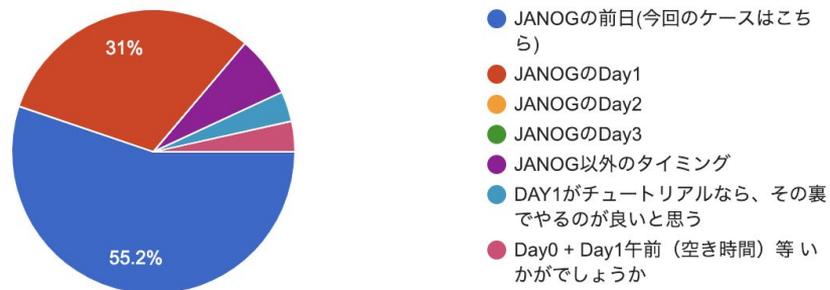
適切だと思うハッカソンの頻度を教えてください。

30 responses



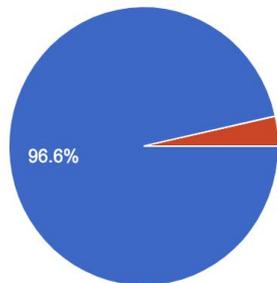
適切だと思うハッカソンの開催のタイミングを教えてください。

29 responses



ハッカソン運営委員の関わり方は適切だったでしょうか

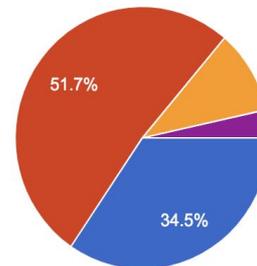
29 responses



- 適切だった
- もっと助けてほしかった
- もっと放っておいてほしかった

開発環境はいかがだったでしょうか

29 responses



- 大変満足している
- 満足している
- 満足していない
- まったく満足していない
- ハッカソン前後の日程でも触れると嬉しいです

参加してよかったと感じる点を教えて下さい。

23 responses

楽しかった。みんなが楽しそうだった

他社の視点、問題点を感じる事が出来て参考になる

日常業務に追われてなかなか取り組めていない開発業務に取り組む時間を作れた。

普段の仕事から離れて集中してできたのが良かった

普段接しない他社の方と共同作業することによって刺激を受けた

普段はあまりやりたくてもやれないことを試すことができた

成果物は出来上がりませんでした、集中して作業できました。他の方の発表もレベルが高く勉強になりました。

図書館の雰囲気が良かった

普段同時に多人数で開発する機会は少なくとも楽しく開発ができた、成果物も出すことが出来て満足です！

普段より限られた時間で、形にするといい刺激があり、とても楽しかった。

短時間で集中して開発に没頭できて、それなりに成果がでた

技術力の高い人たちと関わることができた

参加してよかったと感じる点を教えて下さい。

23 responses

時間が限られている中で、色々調べることも多く、勉強になりました。

参加者のスキルセットを見て、今の時代になにが必要なスキルなのかをかんじることができました。楽しかったです。

色々な方と交流できる。他の方の困り事が共有できることがよかった。

多くの異なる視点やアプローチが見られる点

自動化

集中してツールの開発ができた点

隔離した環境で誰にも邪魔されず開発に集中できるのが良かった。また、普段は時間をかけてデバッグするところを、スペシャリストのスタッフの方々に質問して早期解決できる点は良かったと感じた。

みなさん同じような問題や悩みを抱えていたため、自分の悩みを改善するシステムを作ることで、業界にも貢献できそうだと感じ、モチベーションが高まった。

普段自社で閉じてしまっているのが、他社のメンバと一緒にプロジェクトを勧められたのがよかった

これまであまり知らなかったツールやアプリを知ることができた。

自分の実力不足を痛感したので、今後もっと頑張らないといけないというモチベーションになった

他の方たちがどんな課題を持っているのか知ることができる

ネットワーク系の方々が感じる問題点や開発手法を知ることができた

参加して悪かったと感じる点を教えてください。

15 responses

特になし

JANOG前日は出張がしんどいです

day0はつらい。まる一週間会社にいないので。

特にないです。

他の参加者との交流がなかった

特にない

特にないです

発表の接続がVGAだったためか、接続がときたま切れるグループがあった。それ以外は特に悪い点はありませんでした。

思ったより時間が短く感じた。

とくになし

完成しきらなかった点（妥協しきれなかったこと、事前準備がしきれなかったこと）

会場のネットワークが不安定で途切れることが度々あったので、少しストレスだった。

特にありません

次回開催するにあたり、改善したほうが良い点や新しく取り入れたほうが良い点があれば教えてください。

18 responses

東京開催か、JANOG初日の裏番組としてやってほしいです。

スタッフ間のコミュニケーションを増やしたいです

ハッカソン、本会議を合わせて4日は少し長すぎるためDay1の裏側での実施になると助かります。

ハッカソンのスタッフ?の人たちがたくさんいたけど、あの人たちは何をしていたのだろう。。

デプロイ時間の効率化、短縮化

ハッカソンの当日までにチーム編成とテーマのすり合わせを済ませて、当日はいきなり手を動かす形の方が時間を存分に使えて良いのかなと思いました

詰まってるチームへの介入を、もう少しシステム化しても良いかなと思いました。どこまで踏み込むかの加減。質問来たたら、チームに入ってしまうのをデフォにするとか。

スクリーンの解像度の改善

とくになし

開発環境のマシンパワーを増やしたほうがよいかと思いました。

特になし

次回開催するにあたり、改善したほうが良い点や新しく取り入れたほうが良い点があれば教えてください。

18 responses

開発環境を事前に触れると（準備期間があると）うれしいです。
検証環境構築だけで、結構時間を要したので。

他グループとの交流

4日間出張するのは厳しいので、Day1の裏で1日開催が良いと思いました。
優勝以外にも何らかの賞(アイデア賞、チャレンジ賞、技術力賞等)を用意していただけると、更にモチベーションが高まり、社内報告にも役立つので良いと思いました。特典はいらないので、賞だけほしいです。
折角様々な分野のスペシャリストの方々がいらっしゃるので、投票だけでなく、評価項目を設けてスタッフ内で話し合い、評価結果をフィードバックいただけると参加者としても嬉しいと思います。

提供環境について。利用者をもう少し低めに見積もっていたので、当日は準備に意外と時間がかかってしまいました。ESXiの作業ができるのを2人ではなく4人くらいにしていたら楽だったかもしれません。
全インスタンスをあげるとメモリが足りないことはわかっていたので、早めに2号機に避難する判断ができてよかったです。
提供環境を固定しては、という意見もありますが、各ルータを1台ずつほしい場合と同じルータを4,5台ほしい場合と包含する構成は難しいな、と。

特になし。

東京開催でもいいのでは

例えば、elastic search,kibanaのサーバは用意しておいて、データを投げる部分さえ作ればあとは可視化される！
みたいな環境があると、より参加者のみなさんがネットワーク機器向けのハックに集中できるかもしれないと感じました。（可視化には時間がかかるので）

自由コメントをお願いします。

11 responses

お疲れ様でした！

次回はチェア以外で参加したいです。。。

会場のWiFiが切れやすかったため、少し作業時に困りました。

初めて参加しましたが面白かったです。ありがとうございました。
次回もネタを作れば参加したいです。

ありがとうございました！

個人的には楽しく開発でき、会場のネットワークも設備もとても快適に利用でき運営の方々に感謝です。

とくになし

会場や機材など、ハッカソンで準備頂いたスタッフの皆さま、ありがとうございました。

運営お疲れさまでした。とてもたのしめました！

次は優勝したいです。

運営の方から、初心者向けのjupyter notebookなどの課題が出ていたのは、とても良い取り組みだと思いました。
この部分も大きく宣伝すると良いかと思いました。

Move on to Hackathon Winner !

